

BAKAROAD

北米大陸横断レース1

文・坂東良晃

タウトク編集人、1967生まれ。18〜21歳の頃、日本列島徒歩縦断、アフリカ大陸徒歩横断など約1万キロを踏破。男四十にして再びバカ道を歩まんとする、か？

6月19日、北米大陸横断レースがついにスタートした。

1928年、史上初の大陸横断レースとしてはいまのところのレース。いまだ8度しか開かれておらず、今回のレースは2004年以来7年ぶりとなる。毎日平均73キロを制限時間内に走り、1日たりとも休みはない。ロシア、セルビア、ヨークまでの約5000キロを70日間かけて横断するという壮大で過酷なレースである。

●レース24時間前

大陸横断レーススタートまであと一日。昨日大会開幕セレモニーがあり、五大大陸横断のセルジ・ジラルはじめヨーロッパ大陸横断の王者ら世界中から超長距離走のスーパースターや冒険家が顔を揃えました。日本人ランナーも、ほか以外に日本のこの世界を創りあげてきた伝説的な人ばかり。17人のチャレンジャーをサポートするために25台ほどの車がキラバンの列をなす予定。昔の冒險活劇映画の開幕シーンみたいな世界になりそうです。ぼくはもちろん世界のトップに互する力はないので、脚が折れても完走狙いです。今深夜2時なんぞが興奮やらなんやらが人それぞれで眠れてます。このままスタートラインにつきそうですけど、まあ問題なし。自分の力を全部出して燃え尽きてもまだ魂で前進する。覚悟完了しています。

(レース初日につく)

●6月19日 ステージ1

距離／73.5キロ

ついに大陸横断レースがはじまりました。全大陸横断を決定し4年目にして、その入口に立つたわけですが、レース会場に向かう車中で身体が熱く小刻みに揺れています。武者震いなんて自分でもするんだと驚きました。スタート直後からトランスポーター、ヨーロッパ横断5000キロ、ロシア王者のドイッソ、ライナーが抜けていきます。誰も追いつけず、完全に立場を見失っています。ライナーはキロ4分台でサクサク進んでいます。今から5300キロ走るのに何となくこんな。でも、あきらめず追いかけます。20キロ近くまで追いついたが、ごく当たり前のようにはチキレました。しかし100キロ時間台のスピード選手がゴロゴロ出ているのに、なんでも2位にある人々長いのか、結果的には3位に落ちたが、あー超楽しすぎなんですけどコレ！ あしたは900メートルの登り、泥道めくるみ道の787キロ。コケなきゃいいけど。

記録／8時間12分

ステージ順位／3位

総合順位／3位

●6月20日 ステージ2

距離／78.9キロ

今日も王者のライナー選手に挑戦しました。スタートから逃げるだけ逃げて、どこまでトッ

プでいけるかやってみましたが、あつさり10キロで笑いながら抜かれました。30キロからは、標高1200メートル以上まで登るきつい坂が延々と続きます。最後の20キロはトレイルと呼ばれる山道ですが、乾燥したハゲ山の砂地を果してなく登ります。すでに街はなく完全な荒野です。直射日光が肌を痛くほど焼きます。残り15キロあたりで意識が朦朧としてきました。激しい嘔吐がはじまり、胃の中の物を30回くらいかいてすべて吐きました。走るところが、立っているのも難しくなりました。最後の10キロは意識がありません。ゴールであるホテルの玄関で倒れました。たまたま二日走っただけのこのありさま。情けない気分です。腹の周りについてた脂肪が、けいけい無くなりました。人間で一日でこんな痩せるもんなのね。

記録／13時間12分

●6月21日 ステージ3

距離／76.3キロ

タイサージと主権者から説明がありました。世界中の超長距離の大会を転戦している著名ランナーです。あつけない終わりです。今日は、焼けただら砂漠のような荒野のなかを走ります。アラバートの表明温度は60度にもなり、熱したフライパンの上を走るようです。風は吹いても熱風で、身体を水分を全部奪い去ろうとするかのようです。昨日はいままでの嘔吐は更に悪化し、道はた50度以上吐きました。吐く度に時間を取らないで、大半がフラグです。吐く度に時間を取らずに制限時間に間に合わないで、走りながらゲロします。ゴロな水で飲んでいるのに真黒な胃液がでます。胃壁から出血しているんですよ。中間地点まで行かなくなつちに、座り込んで嘔吐しつづける。完走なんて絶対無理なのかと思いましたが、日本チームのサポートをしてくれている方が、熱中症は身体を冷やして、いって、全身を水で冷やします。帽子の中、首筋に水を巻いたタオル、アームカバー、さらに頭から水を間断なくぶっかけます。どんなに汗ばみ濡れにしても一瞬で乾きます。水が効いたのが、何とか意識を正常に戻しました。制限時間の8分前ゴールです。日本人ランナーの石原さんは数々の砂漠やジャングルなどのアドベンチャーレースに参戦するウルトラランナーです。体調悪く、どう考えても制限時間に間に合わない位置を走っていましたが、全力でゴールに駆け込み1分前にクリアしました。ゴール後にそのまますたアバートに倒れ動けなくなっていました。

記録／13時間22分

●6月22日 ステージ4

距離／81.9キロ

連続ステージレースの厳しいことは、走り終わっただけから翌日のスタート時刻まで極めて時間がないこと。3時間くらいは仮眠がやっています。今日はレス序盤の山場、81.9キロの長丁場のうへ、完全な砂漠気候になります。前日までの

ダメージは仮眠では抜くことができません。宿の部屋では四つん這いで移動しています。歩くのもままならないのに、よく走れるなど自分でも思いますが、スタートのゴールからと、よたよた走れるから不思議です。今日もまた上に戻しなからず。この3日間、固形物は何も食べていません。ジュースやコーラも受け付けられないので、吸収力ロリはばせど、毎日6000キロカロリー分の運動をしていきます。ぼくの身体はどうなっているんでしょうか。序盤のペースをあげられなかったため、残り30キロで、どう考えてもゴール閉鎖時間に間に合わない状況になりました。あきらめはしたくないので、一切の停止をせず、走り続けます。水を全身にぶっかけてながら、必死に前を目指します。残り20キロでこんな苦しいことの初めだ、と実感しました。残り10キロで意識が飛びはじめました。ゴールまでは失神するように必死に意識を保ちました。制限の4分前にとどいて、ゴールで倒れました。まだ4日目ののに、弱すぎるとがっかりです。今日、日本人ランナー2人がタイアアれました。日本のウルトラマラソンの歴史を作りあげてきた尊厳さへきお二人です。無念です。

記録／14時間56分

●6月23日 ステージ5

距離／45.6キロ

ずっとメシを食われてなかったが、昨夜ようやくインスタントラーメンを一個食べられた。今日も気温の上昇で50度近い、地面からの輻射熱がひどく、脚を火鉢であぶらわっている。唇は日焼けでタコ状に腫れぼろ口ポロです。今日は比較的距離の短い日だが、休火山がはきだした溶岩地帯では、岩でぶつかり、熱風が正面から吹きつける。短い距離でも苦悶はかわらない。火事の現場の中に入っているような熱風が、脚にできた5センチ大のママの激痛に泣きながら、またもや制限時間をギリギリでクリアした。本日オランダ人の女性ランナーが時間内完走できた。ヨーロッパ横断3000キロなど走る強いランナー。時間内にはたどりつかないもの、ゴールランまで歩いて、ゴールすると周囲の人にささえられなければならないほど衰弱していた。

記録／7時間56分

●6月24日 ステージ6

距離／64.0キロ

今日は自分では考えられないほど精神の浮き沈みが激しかったです。残り10キロを走っているあたりで、連日同様に嘔吐を繰り返して、ぐちゃぐちゃになった脚裏の痛みがメが合体して超巨大なメにまで膨らみかかっています。ここから逃げ出したいと心から思いました。ずっと失神しないよう、水をかぶっていたけど、もう意識不明で倒れた方がよほど人間として賢明ではないか、と思ひ、倒れやすい場所がなくて探しましたが、どの岩も砂も火であつたように熱く、倒れることも叶いません。昨日まではキンキンと前向きに走っていましたが、ついにヘタレ根性があらわになつてきました。自分がかつかりしなから、今日もまた

最終ランナーとして、大会スタッフの大声援を受けてゴールしました。

15人いたランナーですが、一週間も経たないうちに全死、テキサス州者が10人に減っています。サバイバルレースは過酷を極めています。

走り終えたその地域の安いホテルに泊まります。部屋の中では、脚の痛くて歩くことも大変。四つん這いも厳しく、逆四つん這い腹が上まで移動しています。こんなで明日、スタートラインに立てるのだろうか？

記録／11時間22分

●6月25日 ステージ7

距離／63.7キロ

歩けないのに走れるのか？ 答えは否だ、ではない。明日のことを考えるのはやめよう。今日をいかに生きるかだ。面足の巨大なメは毒々しく化膿し、血と膿が混ざりあって吹き出す。足の裏を地面に付けば、針の上に押しつける。一歩ごとにウツと叫ぶ。こんな足で63キロも走れるのか。と疑問をいっしょにでも状況は変わらぬ。やれること、ぜんぶぶつかる。メをくぐる巻に固くテーピングしたスタートから全力で走り、呼吸の苦しさを痛みを飛ばして。制限時間までの時間を稼ごう。スタート前、何人かのランナーは疲労の極限か、あるいは怪我で立っていられない。ぼくは一歩も止まらずに走りだす。歩くと痛みで叫ぶが、走れば、つまずきがダメなほど走ろう。脚がダメなら腕を振ろう。今使えるものを全部動員して今日を生き延びよう。脚を止めるのと二度と走れないうえに、30キロ過ぎまでハイヒールで飛ばした。総合2位のバトキ（フランス）をリードした。だが30キロで身体が動かなくなる。今日も酷暑と熱風は尋常ではない。度立ち止まると足裏の痛みが目覚め、もつと歩くこともままならない。ゴールまでの長い30キロを足を引く限り、なんとか完走する。今日もフルランナーである。ラストがゴール大声援を受ける。走れもしないランナーがゴールラインを歩いて越える。主催者はフランス人で、スツもみなフランス人、フランス語で称賛してくれるが、もうこの意味はわからない。けど、何となく相通している。

記録／11時間18分

●6月26日 ステージ8

距離／82.0キロ

前半戦最難関のステージです。距離が長いだけに、標高1200メートルの峠までの登り降りを含んだ、ほぼ全ルート坂道です。スタート時点を含んだ、ほぼ全ルート坂道です。スタート時点から最初の平坦な15キロを飛ばすだけ飛ばし、時間稼ぎするつもりです。時間がせきとは、当大会で設定された制限時間、距離×時速5.6キロに達したことを。時速5.6キロなんて大したことないと思いましたが、このクリアは大変難しいです。走っている最中でも、少なくとも栄養補給のための食事やトイレをしなくてはなりません。その間は停止したりスピードが落ちたりします。その要素を含め、時速6キ

